

松井角平蔵『法林寺村三熊野権現御本殿寸法帳』写について

Study on Matsui Kakuhei's copy of "Horinji-mura Mikumano Gongen Gohonden Sumpocho"

平山育男

HIRAYAMA Ikuo

キーワード
松井角平、寸法帳、写し

Keywords
Matsui Kakuhei, dimension book, copy

This article introduces the "Hourinji-mura Mikumano Gongen Gohonden Sumpocho" and reprints it below, and considers some of the background to its establishment. The following points become clear.

This book was written in 1883, and copied by T. Matsueda during

night work at Kakuhei Matsui's workshop during the construction of the shrine building. From the background of the creation of this book, we can recall Matsui's way of gathering a group of engineers, sharing technology within the group, and improving technology.

1 はじめに

過日、『法林寺村三熊野権現御本殿寸法帳』など数冊の文書を入手した。法林寺村は現在の富山県南砺市に位置し、ここに熊野社も所在する。つまり、この文書はその社殿の寸法を記したものであると考えられる。表紙には

明治十六年 不計他見

法林寺村 三熊野権現

御本殿寸法帳

未三月上ばん まつ枝藤左郎□

とあるため、明治16(1883)年に法林寺村に所在する三熊野権現本殿の「寸法帳」を「まつ枝藤左郎□」が記したことになる。ところで、この文書で最も興味をそそられるのは裏表紙にある

越中国砺波郡松井角平方ニ而夜業ニ

写之物ナリ

の奥書である。記載によれば、この文書は「まつ枝」が越中国砺波郡の松井角平方において夜業を行った際にこの内容を書写した、とある。つまり、この『法林寺村三熊野権現御本殿寸法帳』には、原典となる〈祖本『法林寺村三熊野権現御本殿寸法帳』〉が存在し、これを松井角平が制作したことになる。

逆に言えば、松井角平の設計に基づき〈祖本『法林寺村三熊野権現御本殿寸法帳』〉が成立し、その作業の夜業に際して「まつ枝」がこの『法林寺村三熊野権現御本殿寸法帳』を書き写したことになる。

このような文書の存在は、松井角平がどのようにして地域において数ある仕事をこなし、また周囲の大工集団から慕われ、その集団として技術の水準を高めたのかを、わずか2行の文書ではあるが、それら人間関係を含め想起させるものである。

松井角平による仕事は、新潟県においても数々確認される。本稿は、それらとの比較を行うための基礎資料として、『法林寺村三熊野権現御本殿寸法帳』を翻刻するものである。

2 松井角平について

明治16(1883)年に松井角平を名乗ったのは第十三代松井角平恒広もしくは、第十四代恒信と考えることができる。恒広は天保4(1833)年の生まれで、明治31(1898)年に65才で没している^{注1)}。恒広の代表作としては明治18(1885)年に再建された井波の瑞泉寺本堂とされる^{注2)}。また、恒信は明治2(1869)年の生まれで、明治18(1885)

年に福光の熊野神社本殿を手掛け注目された^{注3)}という。

3 さいごに

『法林寺村三熊野権現御本殿寸法帳』を紹介し、以下に翻刻するとともに、成立の背景を一部考察した。明らかとなるのは以下の諸点である。

- 1) 『法林寺村三熊野権現御本殿寸法帳』は明治16(1883)年に作成が行われた。
- 2) 『法林寺村三熊野権現御本殿寸法帳』は、まつ枝藤左郎□が、同社殿の建築に際し、松井角平の作業場において夜業に際して書き写したものである。
- 3) 『法林寺村三熊野権現御本殿寸法帳』には、松井角平の作成に関わる何らかの祖本があり、それを書き写すことで『法林寺村三熊野権現御本殿寸法帳』が成立したとすることができる。
- 4) 『法林寺村三熊野権現御本殿寸法帳』成立の背景より、松井角平による技術者集団の集積、集団内における技術共有及び技術向上のあり方を想起することができる。

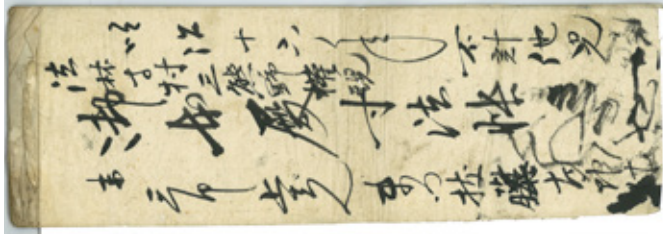
参考文献

- 1) 松井建設株式会社：松井建設四百年のあゆみ、平成元(1989).11

注

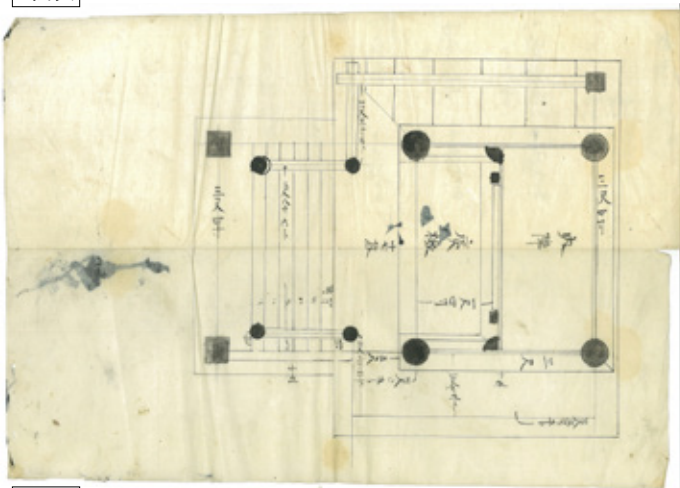
- 注1) 参考文献1) 52頁
- 注2) 参考文献1) 52～56頁
- 注3) 岡田徳右衛門順一：越中人譚【建築】、「松井角平」の項目で頁数記載なし、平成15(2003)。

表紙

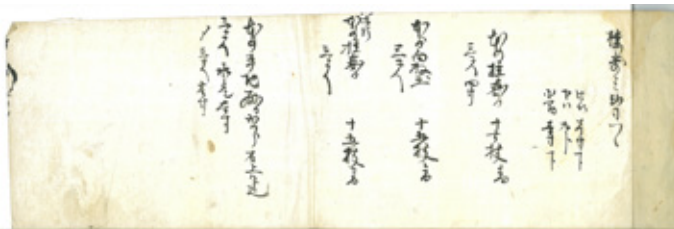


明治十六年 不詳他見
 法林寺村三徳野 権現
 御本殿寸法帳
 未三月十七日 木村 枝藤左郎□

1紙表



2紙表



棟歩ミ式寸ツツ、
 せい壹寸一分
 下八九分
 小間壹寸一分
 本の柱真、十六枝之間
 三尺四寸
 本より向拝出 十五枝之間
 三尺
 梁行
 本の柱真より 十五枝之間
 三尺
 本の平地面よりかつら石上八迄
 三尺 水タレ壹寸
 〆三尺壹寸

3紙表



一 地長押 せい貳寸八分 下八三寸壹分 チリ七分
 一 腰長押 せい三寸 上八三寸壹分 チリ七分
 一 敷石 せい壹寸四分 上八寸五分
 一 鴨居 せい一寸四分 下八一寸二分
 一 上長押 せい三寸 上八寸
 一 丸桁 口脇せい四寸 下八寸四分

表紙裏



〈記載なし〉

1紙裏



〈記載なし〉

2紙裏



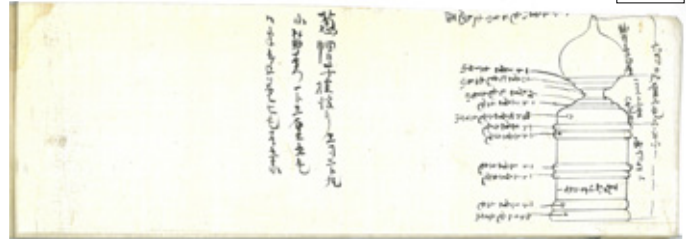
〈記載なし〉

8紙表



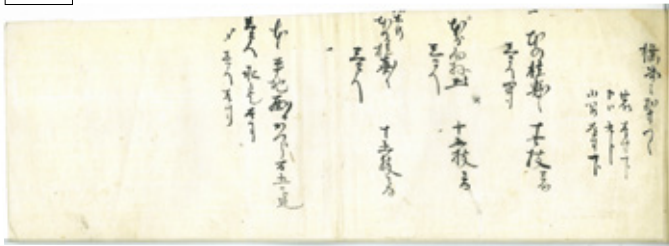
（記載なし）

7紙裏



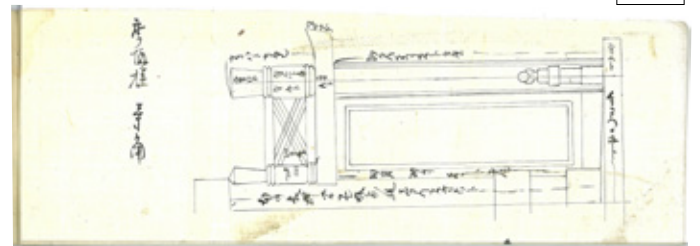
葱帽子柱渡り 三寸二分丸
小筋沓尺一分三厘五毛
同半分五分六厘七毛沓五糸

9紙表



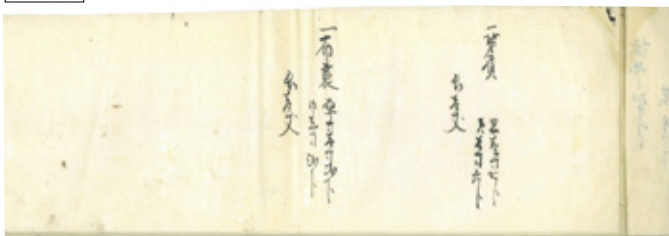
樑歩ミ式寸ツ、
せい沓寸一分
下八九分
小間沓寸一分
一本の柱真、十七枝之間
三尺四寸
本より向押出 十五枝之間
三尺
梁行
本の柱真、十五枝之間
三尺
本平地面よりかつら石上下迄
沓尺水タレ沓寸
メ三尺沓寸

8紙裏



広縁柱 三寸角

10紙表



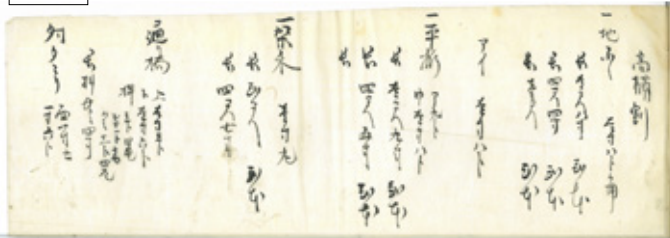
一茅負 せい沓寸七分
下八沓寸六分
長沓丈
一布糞 厚サ沓寸式分
中三寸式分
長沓丈

9紙裏



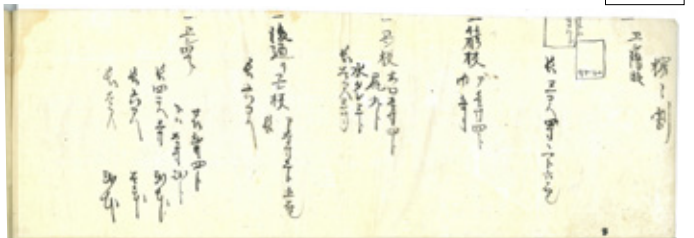
（記載なし）

11紙表



高欄割
一地ふく 沓寸八分角
長沓尺八寸 式本
長四尺四寸 式本
長沓尺 式本
アイ 沓寸八分
一平桁
ア九分
中沓寸八分
長沓尺九寸 式本
長四尺五寸 式本
一梁木 沓寸丸
長式尺 式本
長四尺七寸
通り櫛 上沓寸三分
下沓寸六分
料三分四厘
シキ一分七厘
ハミ三分四厘
長料□□四寸
外タ、リ 面沓寸七
一寸六分

10紙裏



縁之割
一エン階段
長三尺四寸三分六厘
一簾板
ア沓寸四分
中五寸
一エン板
木口沓寸四分
尻九分
水タレ三分
長沓尺三寸
一後通りエン板
ア沓寸三分五厘
長六尺
一エンかつら
せい式寸四分
下八沓寸式分
長四尺三寸 式本
長六尺 沓本
長沓尺 式本

